

あの「五代様」は 由利に異を唱えた 人物だった



五代友厚肖像
(国立国会図書館蔵)

ドラマ「あさが来た」は大阪を舞台とし、その前半では、「五代様」こと五代友厚が人気を博しました。この五代、そしてドラマの舞台である大阪は、由利公正と深い関係にあります。

五代は、薩摩藩出身。安政4(1857)年に藩命で長崎に留学し、航海、砲術、測量を学びます。藩遣英使節団として英国に出発、欧州各地を巡歴した経験を持ち、この時の経験が買われ、明治新政府の参事職外務事務掛となりました。また、大阪に造幣局を誘致したほか、初代

大阪税関長となり、大阪税関の礎を築きます。その後は、官僚から実業家に転じ、大阪商工会議所の初代会頭となるなど、「東の渋沢(栄一)、西の五代」とまで称されました。

一方、由利は慶応3(1867)年12月、坂本龍馬の推挙によって新政府に徴士参与として出仕。翌年1月、殖産興業と戊辰戦争の戦費調達のため太政官札発行を建議します。上京するまでは、由利の活動の場所は京都や大阪でした。当時の大阪は由利財政の反対派の拠点でした。その中心は五代のほか

江藤新平、大隈重信たち外国官所属の官僚達です。彼らは、太政官札が不換紙幣であること、乱発により信用が低下すること、贋金が横行することなどを懸念する外国公使からの批判を受け、由利の太政官札発行に真っ向から異を唱えました。

また、太政官札の発行布告直前の慶応4(1868)年5月9日、貨幣としての銀の取扱いが停止されます。当時、大阪周辺での商取引には銀が用いられていましたが、銀は形が一定でなく取り扱いが不便なため、実際には銀を用いず両替商が発行する手形が流通していました。両替商の中には銀の保管量以上の手形を発行するところも多く、突然の銀の取扱停止に手形の引換が殺到しました。支払不能になった両替商は倒産し、大阪経済は大混乱になったといえます。



太政官札
(福井県立こども歴史文化館蔵)

ドラマ「あさが来た」では、主人公「あさ」の姉「はつ」が嫁いだ両替商「山王寺屋」が経営に行き詰まり、一家が夜逃げするシーンが描か

れていました。このことには、実は由利が関係していた。そのような視点でドラマをもう一度見返すのも面白いかもしれません。

関連史料・ゆかりの地

福井県立 こども歴史文化館



ふくいの歴史で活躍した人物について、映像や人形ジオラマ、イラスト等で楽しく紹介しています。由利公正の発案により発行された、わが国初の全国通用紙幣「太政官札」も所蔵しています。

【住所】福井市城東1-18-21
(JR 福井駅よりフレンドリーバス「こども歴史文化館」下車)